

# えんど久子前市議など日本共産党 大分県と話し合い

## 中学生までの通院無料化を



右から堤栄三県議、えんど久子前別府市議、平野ふみかつ別府市議。  
県議会委員会室にて 2016.10.26.

猿渡（えんど）久子前別府市議や堤栄三県議（大分市選出）ら日本共産党大分県委員会  
は、10月26日大分県と交渉を行いました。

### 子どもの貧困対策として

日本共産党は、子どもの医療費は通院も中学卒業まで無料にするよう粘り強く求めました。

えんど久子前市議は「成長期の中学生の5人にひとりとなる起立性調節障害の診断と治療に加え、風邪と中耳炎も重なり姉弟で1か月に3万円以上かかった」という声を紹介し、「子どもの貧困は6人にひとり、4割が非正規雇用で、貧困対策として無料化が必要だ」と迫りました。

### 「慎重に」と大分県

しかし、大分県の回答は「国の制度として実施するよう要望している。通院の対象を中学生まで拡大するためには、県・市町村とも多大な財源を要することから、慎重に対応したい」というものです。

えんど久子前市議らは「市町村も財政は厳しいが、県下の18市町村中10市町が独自に中学生まで無料にしている。それだけ要望が強いからだ」と県としての実施を求めました。県は「これまでも検討してきたし今後も検討するが、現時点で大分県独自に財政支援するまではないと考えている」と答え、早期の実現を重ねて要望しました。

### 世論をひろげて実現を

日本共産党大分県委員会は、毎年の政府交渉で国の医療費助成制度を作るよう求めています。今年8月23・24日にも、平野ふみかつ市議、竹内よしひろ市議、えんど久子前市議らが堤栄三県議とともに上京し、国に求めました。

これまでも署名活動を行ったり、県交渉で毎年要望したりすることで、県や市の制度は少しずつ充実されてきました。

中学生までの通院無料化を求める署名活動に取り組んでいます。署名をひろげて、市民県民の力でぜひ実現させましょう。

# 日本共産党県政ニュース

別府市石垣西8-2-31  
日本共産党北部地区委員会  
発行責任者 えんど久子  
Tel.0977-22-6576

No. 6

2016.11.23.

# 児童クラブの利用料減免を別府市でも

**大分県に減免制度が実現！**

共働き家庭の子ども達が放課後を過ごす放課後児童クラブ（学童保育）。日本共産党は、これまでも市議会や県交渉などで、利用料減免・補助金の増額・職員の待遇改善など、児童クラブの充実を求めてきました。児童クラブへの補助金は昨年度増額されました。低所得世帯の児童クラブ

## 学校の相談体制など充実

日本共産党は、教職員の定数拡大など教育の充実についても要望。10月26日の交渉で「29年度の採用予定数は昨年度より31名増やし332名」と回答。また、会議や研修が多すぎて忙しい先生達の負担になっているため減らすよう要望し、昨年度は22年度比で16.7%減で、さらに努力する旨の回答でした。

の利用料を減免するための制度が、今年度より大分県で実現しました。この減免は、大分市や豊後高田市・宇佐市・中津市などで実施されていますが、別府市ではまだ実施されていません。大分県と市町村がそれぞれ2分の1を負担します。別府市でも実現できるように力を合わせましょう。

スクールソーシャルワーカーは今年度から配置を始めて必要に応じて医療や福祉の関係機関につなげるようにしたこと、スクールカウンセラーを小学校66校、中学校全公立125校、高校26校に配置して相談体制の充実に努めていること、など回答がありました。要望が少しずつ実っています。今後ともがんばります。

## 生活と健康を守る会

### 大分県と交渉

11月18日「生活と健康を守る会大分県連合会」が大分県と、子育て支援や県営住宅、後期高齢者医療、生活保護など県民要求の実現めざし交渉しました。

堤栄三県議（大分市）や猿渡（えんど）久子県議予定候補（前別府市議）、県連会長の福岡健治大分市議なども参加し交渉に臨みました。



えんど久子は「就学援助が別府では中学生の24%に上る。子どもの貧困対策は重要だ」と、就学援助や子ども医療費助成の充実、災害への県の支援策などを強く求めました。会員さん達も生の声で実情や思いを訴えました。